

GLOBAL VOYAGE



[グローバル ヴォヤージュ]
PEACE BOAT
特別号
Special Number

北半球から南半球へ
新たなる地球一周の船旅



グローバル ヴォヤージュ 特別号 2025年5月12日発行 編集発行人:井上直 発行所:株式会社ジャパングレイス TEL:03-5287-3081

世界一周クルーズは、これまで西回りまたは東回りの航海が一般的でした。しかし、今回のVoyage 121は航路変更により、地球の東西南北を巡る壮大な航海となります。アジア各港に寄港した後、南インド洋を横断してアフリカ大陸最南端の喜望峰まで南下。その後、一気に北上しアイスランドの北極圏に到達します。さらに北大西洋を南下し、ニューヨークを経由した後、世界的に有名なパナマ運河を通過。南米ペルーに寄港後、南太平洋の絶海の孤島イースター島などを経由して日本に戻ります。

私自身、若い頃に船乗りとなり世界中の海を巡りました。これまでに世界一周の航海を40回以上経験していますが、今回のようない中世の大航海時代を彷彿とさせる航路は、非常に楽しみでなりません。地球を縦横に

このような壮大な航海では、世界の海流やそれがもたらす天候、気温、さらには予想外の動物たちの生態系に触れる機会があり、多くの驚きと感動を経験していただけるでしょう。今回の航路は、地球一周4万キロをはるかに超え、私の推測では6万キロ近くに及ぶと思いま

移動しながら、北半球と南半球を一度に巡る航海を経験することは、船乗りにとっても非常に稀なことです。

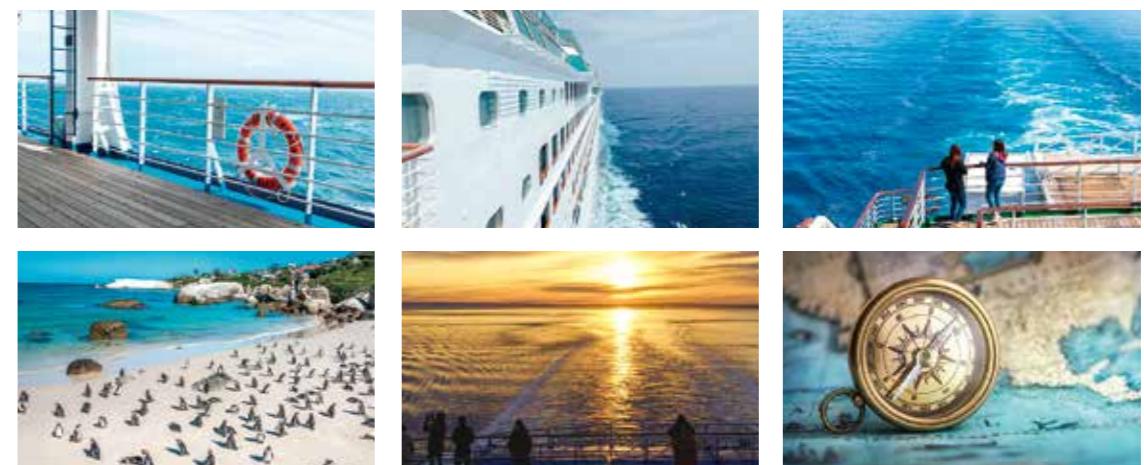
乗船の皆さんには、旅の終わりに今クルーズの総航海距離を記載した「地球一周証明書」をお一人ずつお渡しいたします。およそ100日前に出帆した港へ戻る際には、人類の歴史の中でも限られた人しか経験できない、スケールの大きな大航海を成し遂げた喜びと誇りを感じていただけることでしょう。ぜひ、この素晴らしい船旅をご共に楽しみましょう。本船で皆さまをお待ちしております。

南も北も、地球を丸々見る、
価値あるクルーズです



ジャパングレイス事務局長
(航海士元船長)

挾間 俊一





多様性に富む新寄港地で味わう 未体験の感動

Voyage121における新たな航路では新寄港地が加わりました。

ポートエリザベスの野生動物との出会いや陽光降り注ぐカナリア諸島、アイスランドまで北上した後は
南米のカリブ海の楽園ジャマイカで音楽と陽気な文化に触れるなど多彩な体験が待っています。

インド洋から大西洋を抜け、

ヨーロッパや中南米を訪れる地球をぐるりと回る航海が、新鮮な感動をお届けします。

アフリカ最南端で出会う、壮大な 景色と多様な文化「ケープタウン」

大西洋とインド洋に挟まれたケープタウンは、「世界で最も美しい都市」のひとつとして愛される、南アフリカ屈指の観光地です。ダイナミックなテープルマウントやケープポイントの自然、歴史の薫りが漂う街並み、そして新鮮なシードやワインといった美食まで、多彩な魅力で訪れる人々を惹きつけます。



南アフリカ共和国



1:喜望峰のサインボードはこの地に到達した記念撮影にぴったりの名所。
2:海と空が織りなす絶景を望める「喜望峰展望台」。3:遙かなる水平線とともに広がる喜望峰の雄大な風景。



ケープタウンは、歴史的な街並みと雄大な自然が絶妙に融合した都市です。街の象徴である「テーブルマウンテン」を満喫するには、ロープウェイで山顶に向かい、雄大なパノラマを楽しみながら、大西洋や街並みを一望します。隣接するライオンズヘッドでは、山をハイキングする観光コースもあります。夕暮れどきは特に美しい景色を堪能できます。

自然爱好者であれば必見なのが「ケープ植物区保護地域群」。ユネスコ世界遺産に登録されており、この地域でしか見られない多彩な植物が生息しています。ここから南下すると、アフリカ大陸の最南西端「喜望峰」が現れます。切り立つ崖と広がる海景は、訪れる人々を圧倒します。途中の道で、ボルダーズ・ビーチの可愛らしいペンギンコロニーに立ち寄り、野生のケープペンギンに出会う感動も味わうことができます。

市内観光では中心部にある市庁舎がひとときわ目を引きますが、周辺にも莊厳な建築や広場があり、街の歴史と文化を感じるには最適なスポットです。その隣接地にはネルソン・マンデラが解放後に演説を行った歴史的な広場もあります。ここから少し歩くと、カラフルな建物が並ぶボカーペ地区が広がり、異国情緒あふれる風景も楽しめます。



4:歴史の重みと優美さを感じられる「市庁舎」。5:活気あふれる港町「V&Aウォーターフロント」でショッピングとグルメを満喫。6:ワインのメッカとして知られる南アフリカはワイナリーも観光スポットの一つ。

ショッピングとグルメを楽しむならヴィクトリア・ワーフ・ショッピングセンターへ。地元の新鮮なシーフードや国際色豊かな料理を堪能できるだけでなく、歴史とアートが交差する博物館も多くあります。また地元のワイン文化に触れるなら、近郊のステレンボッシュやフランシュホークのワイナリー巡りを組み込むと、南アフリカの新たな魅力を発見できます。

歴史に興味がある方は、アパルトヘイト博物館を訪れることで、この街が歩んできた道のりに触れることができます。自由と平等を求めた南アフリカの歴史が、映像や展示物を通してリアルに伝わってきます。



ボルダーズ・ビーチで出会える愛らしいペンギンたち。



ケープ半島の自然を象徴する世界遺産。この地方に広がる独特の植生やマラカイトサンバードなど希少な鳥類も見ることができます。

Cape Town

自然と都市が融合した魅力に富んだケープタウンの全景。

〔世界自然遺産〕 ケープ植物区 保護地域群



ケープ半島の自然を象徴する世界遺産。この地方に広がる独特の植生やマラカイトサンバードなど希少な鳥類も見ることができます。



4:歴史の重みと優美さを感じられる「市庁舎」。5:活気あふれる港町「V&Aウォーターフロント」でショッピングとグルメを満喫。6:ワインのメッカとして知られる南アフリカはワイナリーも観光スポットの一つ。



ボルダーズ・ビーチで出会える愛らしいペンギンたち。

過去と未来が交差する
中国の最前線都市「深圳」

深圳は、高層ビルが建ち並ぶ中国の革新とスピードを象徴する、世界から注目を集めれる都市です。一方で、清代の風情が残る古城や信仰文化、華やかな民族芸術など、多層的な魅力にも出会えます。ハイテクと伝統のミックスを肌で感じてみてください。



The collage consists of four numbered images: 1. A cable-stayed bridge spanning a body of water. 2. A large white cruise ship docked at a port. 3. Two bamboo steamers filled with dumplings, with chopsticks resting on the table. 4. A traditional Chinese archway with ornate carvings and red pillars.

1:2025年4月に入港したバシフィック・ワールド号。2:香港と深圳をつなぐアーチ型の巨大な「深圳湾大橋」。3:海の安全を願う女神信仰の「天后博物館」。4:小皿料理をゆっくり味わう飲茶時間。

わしい風景が広がります。道行く車は電気自動車がメインで革新性やテクノロジーを随所に感じられます。近くにある「天后博物館」では海の女神・媽祖信仰にふれることができます。湾岸エリアの美しい「深圳湾大橋」からは対岸の香港も遠望でき、歴史と風景を同時に楽しめるエリアです。

民族衣装や伝統建築が再現されたテーマパーク「中国民俗文化村」では多彩な文化を体感できます。「深圳博物館」で都市の発展をたどる展示などを見学するのもよいでしょう。食事を楽しむなら繁華街・東門町へ。庶民的なレストランが並ぶこのエリアでは、点心や小籠包などの本格飲茶をカジュアルに楽しめます。お土産には、深圳発のガジェットや中国茶、伝統工芸品もおすすめです。



サファアリと美しい海岸線をはじめとする
魅惑の港町「ポートエリザベス」

「南アフリカのフレンドリー・シティ」として知られるポートエリザベス。雄大なサファリから、文化や歴史に触れる観光地、海沿いのリゾート感あふれるスポーツまで楽しみが満載です。



ポートエリザベスで多くの観光客が楽しみにしているのは広大な保護区でのサファリ体験。象やキリン、ライオンなどアフリカ特有の動物たちが生息するエリアを探検するワクワク感は格別です。保護区では、四輪駆動車でのドライブサファリが人気。動物の識別、地元の歴史、植生など幅広い知識をもつガイドによる案内で巡ることができます。

街に戻ったら、歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」を散策するのはいかがでしょう。街のシンボルである

5: 街のシンボルであり歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」。6: 洗練されたレジャー＆リゾート施設の「ボードウォーク」。



様々な野生動物を見る事ができるサファリ体験は人気の高いアクティビティ。



手つかずの自然が残されたアフリカの大地で観察できる迫力ある象の姿。

歴史と自然、グルメが彩る島の旅

「テネリフェ島」

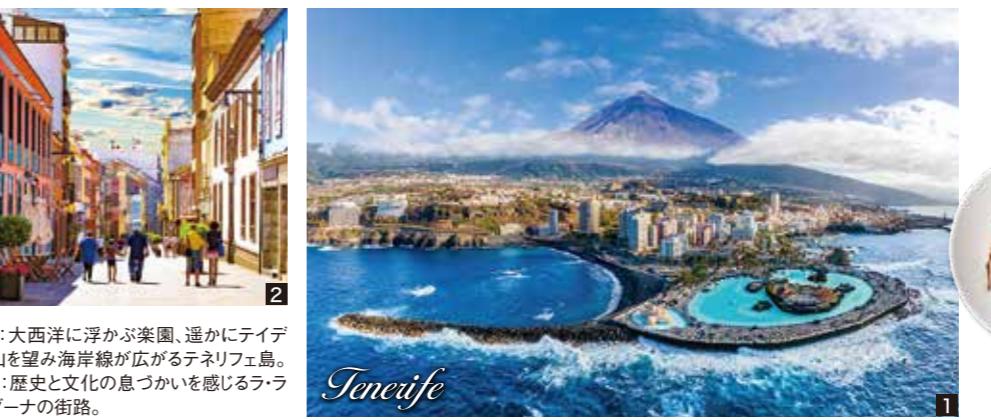


スペイン

スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島は、スペインとアフリカ文化が融合するユニークな魅力を持つ島です。世界遺産の街並みや、壮大な火山風景、地元のグルメが訪れる人々を魅了します。

テネリフェ島は大西洋に浮かぶカナリア諸島最大の島。スペイン植民地時代の影響を色濃く残す歴史ある街並み、自然の絶景など多彩な魅力をもっています。まずは世界遺産のサン・クリストバル・デ・ラ・ラグーナ旧市街の石畳の通りを歩きながら、カラフルな建物や雑貨店を巡り、島の歴史に触れてみましょう。

自然を堪能するならティエイデ国立公園を訪れるのがお勧め。スペイン最高峰の火山の荒々しい景色が広がるこの公園にはロープウェイで山頂近くまでアクセスでき、島全体を見渡すパノラマ景色を体験できます。トレッキングも人気で、大自然のスケール感を実感できます。グルメを楽しむなら、カナリア諸島独自の味覚に注目を。新鮮な魚介を使った料理やラム酒、さらにはフルーティーなカナリアワインといった地元の味を楽しんでください。



1:大西洋に浮かぶ楽園、遥かにティエイデ山を望み海岸線が広がるテネリフェ島。
2:歴史と文化の息づかいを感じるラ・ラグーナの街路。



新鮮な焼きイカにサラダを添えたスペイン料理。

インド洋に浮かぶ美しい島国の首都

「ポートルイス」



モーリシャス

ポートルイスの魅力は、街の表情の豊かさにあります。多民族、多文化が融合し、街を歩けばヒンドゥー寺院の祈りの煙、モスクのミナレット、そしてヨーロッパ調の建物が調和しています。政府庁舎やセントルイス大聖堂などからは、植民地時代の面影が見てとれるでしょう。アープラヴァシ・ガートは、19世紀に契約移民労働者の受け入れ施設であった場所で、世界遺産に登録されています。ショッピングや食事場所を探すなら、トリアノン地区のトライベック・モールへ。200以上の店舗と40以上の飲食店があり、エンターテイメント施設も充実しています。少し足をのばして南西部にあるシャマレルへ向かえば、自然が生んだ奇跡である七色の大地や迫力満点のシャマレル滝など、圧倒的な自然と出会えます。



3:シャマレル鉱山の鉱物が化学反応をおこして生まれた七色の大地。4:空から望むポートルイス。海と山に囲まれ多文化が息づく街並み。5:モーリシャスの一大産業、サトウキビから砂糖をつくる工程などが分かる「砂糖博物館ラヴァンチュール・ド・ショクール」。



ヒンズー教の聖地である「グラン・バッサン」。

カリブの楽園で過ごす極上のひととき

「モンテゴベイ」



ジャマイカ

モンテゴベイは、美しいビーチとカリブの豊かな文化が融合した魅力的なリゾート地。美しいビーチや歴史探訪、ユニークなアクティビティを通して、ジャマイカの真髄に触れましょう。



工芸品として販売されている手作りの木彫りラスタマンのお面。



6:海水浴、日光浴、シュノーケリングなどビーチリゾートの楽しみ方は色々。7:青い海と白い砂浜が広がる絶景のリゾート。8:竹筏に揺られて楽しむリバーカルーズ。9:カリブの楽園で過ごす極上のひととき。

大地を切り裂く、轟音のカーテン

「ビクトリアの滝」



ザンビア



ジンバブエ

オーバーランドツアードで行く
イギリスの探検家リヴィングス頓が、その神々しさから女王の名にちなんで命名した「ビクトリアの滝」。現地では大自然への驚異から「雷鳴の轟く水煙」とも呼ばれています。幅約1.7km、落差約100mを流れ落ちる滝、その轟音は四方に響き渡り、巻き上がる水煙とともに見る者すべてを圧倒します。遊歩道からは複数の角度で滝を間近に眺めることができ、晴れた日には巨大な虹ができることがあります。



9:滝のすぐそばを歩ける大迫力の遊歩道。10:落差100メートルを流れ落ちる白い壁。11:空から見ると大地を裂くように落ちる水の奔流。

10:海水浴、日光浴、シュノーケリングなどビーチリゾートの楽しみ方は色々。11:カリブの楽園で過ごす極上のひととき。



高橋 和夫さん
TAKAHASHI Kazuo
(国際政治学者、放送大学名誉教授)

ピースボートの旅は、 後からじっくりと 効いてくる

ニュース番組からワイドショーまで数多くのテレビ番組に解説者として出演し、数々の著書も手掛けている高橋さん。8月出航のVoyage121にも乗船予定だが、今回はなんと、世界一周の全行程への参加を目指して現在調整中。水先案内人として幾度も乗船した経験から、ピースボートクルーズならではの魅力について綴った寄稿を、今回あらためてご紹介します。



気温が高いので腐らないように少し酸味を強くしているとのことだった。この都市の全体的印象は「何もない」だった。ただ、あつたのは十分過ぎる暑さだった。そしてピンと背筋を伸ばした誇り高き人々がいた。こうした観光地でない港を訪れるのが、ピースボートの面白さである。たとえばハイテク産業の中心として知られる深圳だ。寒村が突然に大都市になつた。1990年代に、鉄道で隣の香港から訪れて、その変化の勢いを取材した。それから30年後、視野をおおうような巨大な都市の全体像を見ながら入港した。未来に待ち伏せされたような感覚に打たれた。あるいはニューヨークを船で訪れる経験も格別である。飛行機と船では、

感動の種類が違う。ゆっくりと船でマンハッタン島に近づくと、自由の女神像が視界に入ってくる。最初はボンヤリと、そして鮮明に見えてくる。これが、ヨーロッパからの数多くの移民たちが最初に見た風景だ。『ゴッドファーザー』という映画の最初の場面のようにである。移民たちの感情を追体験しているような気になる。大きな港に行くのも素敵だ。ピースボートの「普通のクルーズ」らしい部分は、素晴らしい。

しかし、ピースボートしか行かないような港の風景も捨てがたい。マツサワ以外の例を挙げるとモザンビークの首都マプトがある。モザンビークはアフリカの南東にある。南アフリカの北に位置しインド洋に面している。

ポルトガルから独立した国である。安土桃山時代にポルトガルの宣教師がモザンビーク出身の黒人を織田信長に「献上」したという記録が残っている。現地でツアーバスに乗ると、ブラジルと同じような音楽が流れている。このノリからして、ポルトガル語圏に入ったのが耳から理解できる。ここでは、内戦で負傷した人たちの村を訪ねた。地雷で脚を失つた人々が暮らしている村だった。こうした場所も、普通のクルーズでは訪れないだろう。

何年か前に上海のホテルのロビーで隣り合わせた外国人の家族と一緒にやべりをする機会があった。お父さんは、「エリトリアのマツサワには、何回か行ったことがあるし、インジャラも食べたことがある。マツサワのインジャラは、酸っぱい」と言葉を続けると、その男の表情が笑顔に崩れた。相手は驚き喜んだ。中国でエリトリアに行つたことのある日本人に会うとは想像もしていなかつたからだろう。マツサワのしさを思い出した。ピースボートの旅は何年後かに、じっくりと効いてくる。

きっかけは、エリトリアだった。どこかで見かけたピースボートのポスターが、寄港地の一つに挙げていた。行ってみたかった。というのはクウェートに留学中にアラビア語のクラスの同級生に「ハイ」という名のエリトリア人がいたからだ。とても、いいやつだった。それでエリトリアーの一部とされていて、エリトリアは国ではなかった。歴史を調べるとイタリアの植民地にされ、その後に支配者がイギリスに変わり、そしてエチオピアに併合されている。エリトリア人は、独立を求めた。エリトリアは、当時のエチオピアの海に面した部分であった。紅海を隔てサウジアラビアと向かい合っている。このエリトリアを失うとエチオピアは海への出口を失ってしまう。それがエチオピアが

エリトリアの独立を許さなかつた大きさな理由だった。だがエリトリア人は立ち上がり独立を求め戦つた。女たちも銃を取つた。そして長年の闘争をして、1993年に独立を達成した。最初に講師として乗らないかとの打診を受けた時に、確認するとエリトリアに寄港するということだった。それならばということで、講師として、つまり「水先案内人」として乗船した。イングランド洋を抜けて、ある朝に目覚めるとデッキの外にエリトリアのマツサワ港があった。ついにクウェートでの同級生の国にやつってきた。

マツサワでは独立闘争の話を聴いたり現地のインジャラという食べ物をいただいたりした。インジャラは甘くないクレープのようなもので、野菜や肉などを包んで食べる。マツサワでは

エリトリアの独立を許さなかつた大きさな理由だった。だがエリトリア人は立ち上がり独立を求め戦つた。女たちも銃を取つた。そして長年の闘争をして、1993年に独立を達成した。

最初に講師として乗らないかとの打診を受けた時に、確認するとエリトリアに寄港するということだった。それならばということで、講師として、つまり「水先案内人」として乗船した。イングランド洋を抜けて、ある朝に目覚めるとデッキの外にエリトリアのマツサワ港があった。ついにクウェートでの同級生の国にやつてきた。



「絶対、外せません」と推す
クルーズティレクターが
オーロラ鑑賞

4回目の世界一周も
たっぷり楽しめました

昨年Voyage118に乗船された鍋田真弓さん。今回が4回目の世界一周の旅は申し込み後に航路変更となりましたが、「変更されたプランのなかで楽しもう」と考え、世界一周の旅を満喫しました。寄港地の思い出などについて話を伺いました。

鍋田真弓さん



出発前に航路変更の発表がありましたが、その点はどう受け止めましたか。

に参加しました。これはかつての「黒人居住地」を訪ねるピースボートならではの貴重な機会になりました。オーロラは、もう期待以上でしたね。すごく長い時間、オーロラ観察ができましたが、神秘的な世界を体感した。

素晴らしいですね。

がいました。サモアのアピアでは自立を目指す女性たちと会うツアーレンジで、私はその一つとして、アーチー島のサモア文化体験を担当する運営者として、アーチー島のサモア文化を紹介する機会を得ました。アーチー島は、サモアの島々の中でも特に自然環境が豊かで、美しいビーチや山々が点在する島です。そこで、アーチー島でのサモア文化体験は、島の自然環境を活用したアクティビティや、島の伝統文化を学ぶワークショップなど、様々な内容で構成されています。

A photograph of two women sitting on a red couch, laughing heartily. The woman on the left wears a dark t-shirt with the text "Move Soon" and a graphic of a swimmer. The woman on the right wears a pink t-shirt and a white baseball cap. They are both looking towards the camera with wide smiles.

鍋田さんは4回目の世界一周になるVoyage118に、出発前どのような期待を抱いていましたか。

よつて加わった寄港地も素晴らしかつたですよ。たとえばラスパルマスでは人で島内をバスで

が揃わないと出かけられないんだ。だから参加できるタイミングはとても貴重でフルに活用すべきこと」と。すごく共感しました。だからまづ乗船できることに感謝（まことに）

が揃わないと出かけられないんだ。だから参加できるタイミングはとても貴重でフルに活用すべきこと」とと。すごく共感しました。だからまづ乗船できることに感謝しましたね。実はこれで最後にするつもりでしたのが、Voyage 126にも予約を入れているんです(笑)。

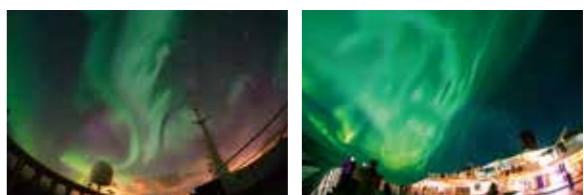
そこで鍋田さんを惹き付けるものは何でしょうか。

外せないところはいくつもありますが、個人的にナンバーワンはなんといつてもオーロラです。天候に左右される、運任せなどころもあるので見られたときの感動が大きいです。やはり、光のない海の上で満天のオーロラが出現したときの驚き、圧倒される神秘

Voyage121のクルーズ
ディレクターという立場から、
観光スポットで見逃せない
ところはどこでしようか。

A professional portrait of Dr. Yoko Kondo, a woman with short brown hair, smiling warmly at the camera. She is wearing a light-colored blazer over a white top. The background is a bright, modern interior space with wooden elements and glass walls.

クルーズディレクター
椎名慈子 SHIJINA Noriko



ランは空っぽになつていましたね。船上では「おーっ」とか「あーっ」とか歓声なんか悲鳴なのか、大声が上がつていてした。気がつけば私も大きな声で叫んでいましたが(笑)。

Q 2025年は
オーロラの当たり年ですか。

性を参加者の皆さんには絶対に体験してもらいたいと思います。本当に時間も忘れて、いつまでも見続けられる、自然の驚異です。

Q

をおすすめします。

オーロラ観賞の前には
さまざまな船内企画もあると
聞いています。

オーロラ講座のほかは、クルーズによつて異なりますが、これまでオーロラファッショントー、オーロラの撮り方、ビンゴ大会、それに食事ではオーロラ御膳が提供されることもありました。今回も楽しい企画をたくさん用意する予定です。

A photograph of a bright green aurora borealis over a dark sky.

Q いつ出現するかわからない
オーロラを、どうやって待つ
いるのですか。

周期のなかでも、もつとも活発になる年なので、鮮やかなオーロラが発生しやすくなります。アイスランドでも9月に入ると非常に高い確率で観測できるでしょう。一年前のクルーズ「Voyage 118」でのオーロラもすごかつたですが、それ以上のものが期待できます。なので今年を逃すのはもったいないと思いますよ。



2024年Voyage118の船上で撮影したオーロラ。